

平成 22 年度 財団法人焼津市振興公社事業報告書

1. 総括事項

財団法人焼津市振興公社は、その目的を達成するため、平成 22 年度において概ね次のような事業を行いました。

(1) 地域文化の振興

焼津及び大井川文化会館では、国内外の優れた芸術文化の鑑賞機会を広く市民に提供するため、自主文化事業を積極的に実施いたしました。事業の実施については、市民の要求と経済性を考慮した上で良質な催事を選択し、他の団体・機関との共催事業を含め、文化会館としては 80 本（焼津 58 本・大井川 22 本）の自主事業を行いました。多くの市民の鑑賞を得、好評を博しました。

観客動員の対策として、テレビ、新聞広告等を利用した事業 PR を積極的に行うと伴に、文化事業情報の提供のため情報紙「いべにゅ」・「ミュージコクラブ」を毎月発行いたしました。

また、託児サービスを実施するなど、利用者の利便性向上を図り、より多くの人々が気軽に利用できるよう努めました。

ディスカバリーパーク焼津天文科学館では、昨年度にリニューアルオープンしたプラネタリウムにより、「実際の空を忠実に再現した美しく鮮明な星空」や「国内最高水準の高解像度 CG 投影機を使った大迫力の投影」などが可能になりました。

昨年は、天文分野の報道が多く盛り上がりを見せた年となり、最も注目を浴びた小惑星探査機「はやぶさ」の帰還が、天文科学館の利活用にも拍車をかけました。

展示・科学体験分野では、楽しみながら「見て」「触れて」「体験する」ことができる特別展を 5 回開催しました。特に夏休みに開催した「ふしぎ！とびだす！トリックアート展」では人の感覚の不思議を通して、脳のしくみなど、ヒトのからだに対する興味・関心を深めてもらうことができました。また、身近に科学を学べる機会を設け、子どもから大人まで参加できる体験型の事業を開催し、来館者に科学の面白さや楽しさを知ってもらうことに努めました。

(2) 公の施設等の管理運営の受託

地域文化の振興拠点である文化センターの施設管理と焼津文化会館及び大井川文化会館の運営、ディスカバリーパーク焼津の天文科学館の管理運営、ディスカバリーパーク焼津内の公園・広場の維持管理を行いました。

焼津・大井川文化会館及びディスカバリーパーク焼津天文科学館の施設運営については、市民のさまざまな要求と期待に添うことができるよう、複合施設としての機能を生かすと伴に、弾力的、効果的な運営に努めました。

その結果として、焼津文化会館では大小ホール、会議室等の効率的な貸館業務の運営を行い、年間利用者数は 274,433 人、年間会館使用料収入は 43,070,640 円を計上し、同様に大井川文化会館では、年間利用者数 72,451 人、年間会館使用料収入は 11,040,920 円を計上しました。

また、ディスカバリーパーク焼津天文科学館では、プラネタリウムのリニューアルの影響や天文分野での豊富な話題などもあり 11 月 27 日には、ディスカバリーパーク焼津全体で有料入場者 250 万人を達成し、年間の有料入場者数が 143,776 人に上り、平成 9 年開園依頼の年間最高入場者数の記録を更新しました。

以上により、今期の収支は事業活動収支の部では収入 553,211,077 円、支出 552,782,270 円、収支差額 428,807 円、投資活動収支の部では、収入 0 円、支出 229,377 円、収支差額 229,377 円となり全体の差引で 199,430 円の利益を計上しました。

今後とも、焼津市との緊密な連携の下、公社の合理的な運営を図り、市民サービスの向上に一層の努力を重ねる所存です。